

ご挨拶 第8回子ども学会学術集会開催にあたって

本大会では、子どもの発達理解や支援に携わっている研究者、実践者が集い、「育ちと学びを支える」というテーマで議論したいと考えています。

東日本大震災においては多くの方が犠牲になりました。また、さらに多くの方々が被災され今なお復興に向かって日々暮らしておられます。の中には子どもや子どもを支える保護者の方々、保育や保健、福祉に関わる方々も多くおられます。子どもを総合的にとらえ、健やかな育ちについて知見を高めようとして集う私たち「日本子ども学会」の本大会におきましては、これらの方々に対してどのような長期的支援をして行けばよいのか、また学際領域を架橋した学会であるからこそできることについて発信したいと考えております。

発達の支援を裏打ちするエビデンスと、実際の実践活動を総合的に結びつけながら、長期的に子どもと子どもを取り巻く環境を支えるための仕組みなどについて議論できればと思っております。

大会第一日目は、子どもの長期的な発達支援について考えて行きたいと思えます。また、マクロな環境論としての子育て文化について基調講演をいただき、子どもをとりまく子育て環境やこれからの社会の在り方について考えたいと考えています。

二日目は、東日本大震災の子ども支援について、阪神淡路大震災から伝えることができることとして午前中に講演をいただき、午後は、中長期的な被災児・者の支援にむけての現地からの問題提起などから、これからの子どもの育ちと学びを支えるために学際的な視点からどのようなことが出来るのかを考えていきたいと思っております。また、この学術集会をきっかけに、子ども学会の中に、なんらかの領域架橋的な研究・支援グループが立ち上がり、継続的な対応がとれればとも思っております。

皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

第8回日本子ども学会大会長
武庫川女子大学教授
河合 優年